

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会  
三神農業振興センター

「稲作情報（第4号）」について（送付）  
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

## 稲・大豆作情報（第4号）

### 1. 情報田生育調査結果について

#### (1) 耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神崎市)
移植日(月日)	6月11日 (平年:6/9)	6月18日 (平年:6/20)	6月23日 (平年:6/19)
栽植密度(株/m <sup>2</sup> )	15.6 (52.1株/坪)	16.8 (55.9株/坪)	18.7 (62.2株/坪)

#### (2) 調査結果（7月26日現在）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)	82.8	58.4	44.9
平年値(平年比)	82.3(101)	60.0(97)	51.9(86)
莖数(本/m <sup>2</sup> )	359	447	514
平年値(平年比)	334(107)	496(90)	694(74)
葉齢(L)	11.6	11.1	10.4
平年値(平年差)	11.3(+0.2)	11.3(-0.2)	11.5(-1.1)
葉色(SPAD値)	36.9	40.4	41.3
平年値(平年差)	40.4(-3.5)	41.9(-1.6)	40.9(+0.4)

#### 概況

気象（7月21日～26日までの期間）

【平均気温】平年より1.0℃高い。

【日照時間】平年比111%と長い。

【降水量】平年比22%と少ない。

生育（平年と比較して）

草丈:「夢しずく」は平年並み。「さがびより」はやや低く、「ヒヨクモチ」は低い。

莖数:「夢しずく」は多く、「さがびより」「ヒヨクモチ」は少ない。

葉齢:「夢しずく」でやや早い。「さがびより」はやや遅く、「ヒヨクモチ」は遅れている。

幼穂長:「夢しずく」で1～2mm

留意点

「さがびより」は移植後1週間頃から、「ヒヨクモチ」は移植直後から降雨が多く、浸冠水および深水が続いた影響による莖葉の損傷や生育の停滞がみられた。

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7か年の数値を7月19日又は20日に換算し、そのうち最高、最低を除いた5か年の平均値。

「ヒヨクモチ」はR1,2年データ欠損のため、平年値はH28～R4(R1,2除く)5か年の平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

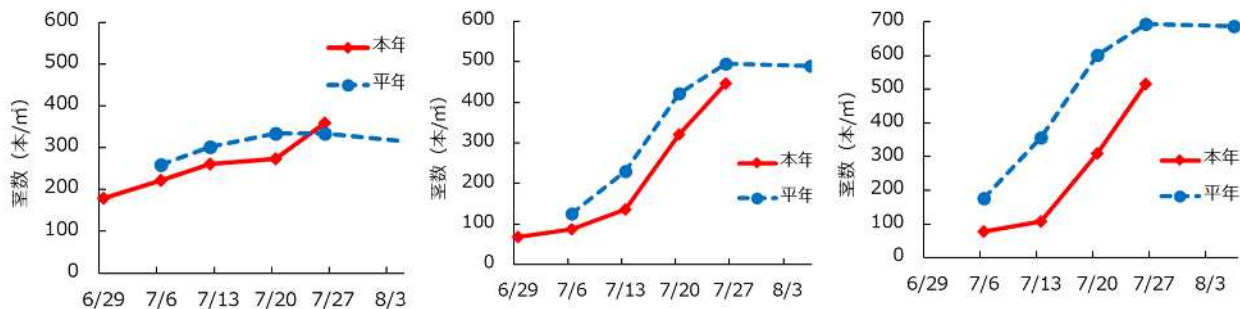


図 茎数の推移 (左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ)

農業試験研究センター米づくり情報 4号 7月24日(抜粋)

移植日	項目		草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	品種	年次					
6月19日	夢しずく	本年	59.8	431	10.9	40.0	[気象] 7月18日～23日まで ◆平均気温…平年より1.1℃高い ◆日照時間…短い(平年比83%) ◆降水量…少ない(平年比46%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」で平年並み、その他の品種では低い。 ◆茎数 「夢しずく」で多く、「ヒノヒカリ」「さがびより」では少ない。「ヒヨクモチ」では平年並み。 ◆葉齢 「夢しずく」「ヒヨクモチ」では進んでおり、他の品種は平年並み。 ◆葉色(SPAD値) 「夢しずく」「ヒヨクモチ」で高い、「ヒノヒカリ」でやや高い、「さがびより」で平年並み。
		平年	60.7	411	10.5	36.6	
		平年比(差)	99	105	+0.4	+3.4	
	ヒノヒカリ	本年	47.7	497	10.0	40.3	
平年		55.8	561	10.7	38.5		
平年比(差)		85	89	-0.7	+1.8		
6月20日	さがびより	本年	47.3	416	10.4	36.8	
		平年	51.3	515	10.5	37.0	
		平年比(差)	92	81	-0.1	-0.2	
	ヒヨクモチ	本年	45.5	813	11.5	40.8	
平年		49.3	819	11.2	37.8		
平年比(差)		92	99	+0.3	+3.0		
留意点	○「夢しずく」は間もなく幼穂形成期(農試平年7/28)を迎えるため、それまでに中干しを終える。穂肥は穂肥診断に基づき適正に施用する。 ○「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」等の中晩生品種は中干しを実施する。中干し終了後は間断灌水に移行する。						

## 2. 普通期水稻の今後の管理について

生育初期の冠水やその後の水管理状況により、圃場ごとの生育差が大きい。圃場の状況を確認し、茎数に応じた管理を徹底し、有効茎数の確保に努める。

「夢しずく」は幼穂形成期を迎えるため、穂肥診断に従い、遅れないように穂肥を施用する。

### (1) 水管理

- 分げつ数確保のため、引き続き浅水管理、間断灌水を徹底する。
- 1株あたり茎数が確保できた圃場は落水し「中干し」を実施する。
- 中干し後は、間断灌水(断水期間をやや長く行う)を行い株元の地固めに努める。中干しは、土が軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度とする。

- ・中干時期の目安は以下のとおり。圃場ごとに茎数を確認し、必要に応じて行う。

「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」

1株あたり茎数が20本以上。(移植が6月20日頃の圃場では7月下旬から。)

～中干しの効果～

- 無効分げつの発生を抑制する  
(過繁茂防止、生育量の適正化)
- 田面を固める  
(収穫作業と麦播種作業の効率化)
- 土壌中に酸素を送り、根の活力UP、有害ガスの除去



**土は黒く軽くヒビが入る程度**

## (2) 穂肥

- ・「夢しずく」は6月上旬移植で幼穂形成期(幼穂長1mm程度の時期)を迎えている。必ず「穂肥診断」(葉色と幼穂長を確認)を実施し、下の表1、表2を参考に穂肥を施用する。
- ・葉緑素計(SPAD)で葉色40以上又は草丈80cm以上の圃場で穂肥は施用しない。
- ・施用時は湛水し、その後は間断灌水に移行する。

表1. 夢しずくの穂肥診断基準

幼穂形成始期草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	現物量(BB602)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a	山麓	平坦
73cm 以下	3.0 以下	34 以下	20～22日	1mm	3.0	20kg	15kg
	3.0～3.5	38 以下	18～20日	2mm	3.0	20kg	15kg
	3.5～3.8	38～39		2mm	1.5～2.0		10kg
	3.8 以上	40 以上	18日	2mm	1.0 以下		7kg
73～79cm	3.0～3.5	34 以下	18～20日	2mm	1.5～2.0		10kg
	3.5～3.8	38～39	18～20日	2mm	1.0		7kg
	3.8 以上	40 以上			施用しない		
80cm 以上					原則として施用しない		

表2. 穂肥時期の目安

移植時期	穂肥の目安(平年)	出穂期(目安)
6月10日	7月23～25日	8月14日前後
6月15日～	7月25～27日	8月16～17日

- ・「ヒノヒカリ」、「さがびより」は8月上旬頃に幼穂形成期(幼穂長1mm程度の時期)を迎える見込みである。
- ・必ず「穂肥診断」(葉色と幼穂長を確認)を実施し、表3～6を参考に穂肥を施用する。  
※隣接圃場が「ヒヨクモチ」だと葉色が著しく淡く見えるので留意する。

## ① 「ヒノヒカリ」の穂肥診断基準

穂肥時期の目安

表3. 出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	22 ～ 20	19 ～ 18	18 ～ 16	16 ～ 15
主稈の幼穂(mm)	1 ～ 2	3 ～ 5	5 ～ 15	15 ～ 80

表 4. ヒノヒカリの穂肥診断基準

幼穂 1mm の時の草丈	葉 色	葉色版群落葉色	SPAD	幼 穂 長 (mm)	BB602 の施用量 (k g/10a)
80cm 以下	薄い	3.0 以下	34 以下	1 ~ 2	20 k g
	<b>標準</b>	<b>3.0 ~ 3.5</b>	<b>34 ~ 38</b>	<b>3 ~ 5</b>	<b>20 k g</b>
	やや濃い	3.5 ~ 3.8	38 ~ 39	5 ~ 15	15 k g
	濃い	3.8 以上	39 以上	15 ~ 30	施用しない
80cm 以上	薄い	3.0 以下	34 以下	1 ~ 2	15 k g
	標準	3.0 ~ 3.5	34 ~ 38	3 ~ 5	15 k g
	やや濃い	3.5 ~ 3.8	38 ~ 39	5 ~ 15	施用しない
	濃い	3.8 以上	39 以上	15 ~ 30	施用しない

※穂肥時に葉色が薄い～薄い状況で、幼穂長が 5～15 mm だった場合、2～5 割減肥する。  
幼穂長 30 mm 以上の場合は、食味の低下が懸念されるため穂肥は施用しない。

② 「さがびより」の穂肥判断基準

穂肥時期の目安

表 5. 出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	22 ~ 20	19 ~ 18	18 ~ 16	16 ~ 15
主稈の幼穂長 (mm)	1 ~ 2	3 ~ 5	5 ~ 15	15 ~ 80

表 6. さがびよりの穂肥診断基準

幼穂 1mm の時の草丈	葉 色	葉色版群落葉色	SPAD	幼 穂 長 (mm)	BB602 の施用量 (k g/10a)
75cm 以下	薄い	2.5 以下	34 以下	5	15 k g
	<b>標準</b>	<b>3.0 ~ 3.5</b>	<b>34 ~ 38</b>	<b>10</b>	<b>10 k g</b>
	やや濃い	3.5 ~ 3.8	38 ~ 39	15	7.5 k g
	濃い	3.8 以上	39 以上	施用しない	
75cm ～ 80cm	薄い	3.0 以下	34 以下	10 ~ 15	10 k g
	標準～濃い	3.0 以上	37 以上	施用しない	
80cm 以上	施用しない				

※早くても幼穂長が 5mm になっていることを確認して穂肥を施用する。

※葉色が濃い圃場や幼穂長が 15 mm 以上になっている圃場での穂肥施用は、食味低下が懸念されるため、穂肥は施用しない。



注1) 早すぎる穂肥 → 止葉が伸び、倒れやすく、籾数が多すぎて登熟が悪くなる  
 遅すぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米の蛋白含量が高く食味が落ちる

注2) 多すぎる穂肥 → 倒れやすく、籾数が多く登熟が悪く、蛋白含量が高く食味が落ちる  
 少なすぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米がやせて品質が落ちる

注3) 中干し直後に葉色が淡く草丈が低い圃場についても、中干しの乾土効果（土壌中の有機体窒素が分解によって水稻に吸収される形になる）により、急激に葉色が濃くなる場合があるため、圃場の状況に合わせて散布する。

### (3) 病害虫防除について

#### ①海外飛来性害虫

- 梅雨の前線に伴うトビイロウンカ飛来（6/30～7/13）が県西部で確認されている。
- 一部圃場ではウンカ類の幼虫（セジロウンカ中心）が確認されている。
- 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

防除適期①  
7/22～7/28 頃

防除適期②  
8/20～8/26 頃

佐賀県 農業技術防除センター

※防除適期は「幼虫ふ化揃い期」です。

#### <要防除水準>

7月下旬～8月上旬にトビイロウンカの成虫または幼虫が10株あたり2頭以上確認される場合は幼虫ふ化揃い期に防除しましょう。



図 トビイロウンカの発生予測  
第1版、2023年7月25日作成

#### ②いもち病

- 本田で新たな病斑の発生が認められた防除を検討する。
- 補植用の苗を圃場に放置すると、いもち病の温床となるので早急に撤去する。

#### ③紋枯れ病

- 高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が発生しやすくなるため注意する。
- 病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を検討する。（液剤・粉剤の場合は、出穂の10～20日間を目安）

#### (4) 除草作業

- ・除草剤が散布できなかった圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生が見られる。
- ・このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。
- ・除草剤の散布時期については、農薬の使用基準を順守し、収穫前日数に注意する。

### 大豆の今後の管理について

多くの圃場で7月15日頃から播種が開始され、ほとんどの圃場で播種作業は終了している。7月22日頃までに播種された圃場では、出芽期を迎えており、適度に圃場水分があったことから出芽揃いの良い圃場が多い。

#### 1) 今後の天候について

参考) 週間天気予報 (佐賀県7月27日11時時点 佐賀地方气象台より)

今日 27日(木)	明日 28日(金)	明後日 29日(土)	30日(日)	31日(月)	01日(火)	02日(水)	03日(木)
晴後曇	晴後曇	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇
							

#### 2) 播種について

##### ○種子消毒

- ・紫斑病やその他の雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上に効果がある為、種子消毒（クルーザーMAXX、キヒゲンR2フロアブル）を実施する。

##### ○播種量

- ・大豆の収量を確保するために、播種時期にあった播種量を選択し、栽植密度を調整する。

播種期	栽植本数 (本/m <sup>2</sup> )	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月21~31日	13本	75×20×2	4.0
8月~	18本	(2条)75×15×2	5.3
	20本	(3条)50×20×2	6.0

##### ○播種深度等

- ・播種後に降雨が多い予報の場合は2~3cmの浅め、晴天が続く場合や土壌が乾燥している場合は4~5cm前後の深めに播種する。
- ・鎮圧は土壌表面が乾いた後に行う。播種機の鎮圧輪で種子直上が窪むと雨水が集中するため、鎮圧後のうね形状には注意する。
- ・1工程で播種する場合には、碎土率を高めるため、作業速度を遅くする。

#### 3) 除草剤について

##### ○播種前処理

- ・雑草発生が目立つ圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤（ラウンドアップ、プリグロックス等）の散布や、播種直後に土壌処理剤の散布を行う。その際、周囲の水稻等への飛散がない様注意する。

- 非選択性茎葉処理剤の使用に当たっては耕起前日でも枯殺可能。(ラウンドアップは1日で吸収移行、散布後1時間後の降雨 OK、プリグロックスは1日程度で効果発現、散布後15分後の降雨 OK)

○播種後処理

- 播種直後に土壌処理剤を散布する。難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場ではフルミオ、ラクサー乳剤の除草効果が高い。

4) 中耕・培土の実施

- 7月中旬播種の大豆の生育ステージは、出芽期～本葉1葉期である。
- 本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行う。
- 本葉が5枚開いているのを確認したら、初生葉（子葉の上の葉）が隠れる程度まで2回目の培土を行う。
- 特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行う。

